待ちに待った給食
ごはん　さつま汁
鶏肉の朝鮮焼き
豆まめサラダ

ほぼ日刊
carat

第７２８号
神町中学校　夢色通信社
令和２年10月２日

３年生の研修旅行中、１・２年生は映画観賞を行いました。映画を作った五藤利弘監督からも「戦後75年という節目の年にこの映画を見て何かを感じて欲しい」というビデオメッセージをいただきました。今回は、２年生の感想をお届けします。

昭和20年８月６日８時15分、広島に投下された一発の原子爆弾。奇跡的に焼け残ったピアノ。その被爆ピアノを託された調律師の矢川光則さんは、自らトラックにピアノを積んで、全国に被爆ピアノの音色を届けて回る。10月13日、その被爆ピアノが矢川さんとともに神町中学校に来る。

お母さんの被爆ピアノ

戦争は、本当に起こしてはいけないと思いました。原爆は無差別に人を殺してしまいます。また、私たちが大人になった時、原爆が落とされることのない平和な世界であって欲しいと思います。被爆した建物やピアノを通して、戦争の悲惨さや残酷さを伝えていかなければと思いました。（阿部真夕）

普通だったら「被爆ピアノ」は記念館などに飾ってもいいと思いますが、原爆に関わりがある人にとっては、飾るよりもピアノに触れることで原爆に対する何かを感じて欲しいのではないかと思いました。矢川さんが、ピアノを乱暴に扱っている若者を大声で注意しているところが印象的で、被爆への思いの強さを感じました。（小野奏和）

映画を見て、今を大切に生きようと改めて思いました。学校に行けること、家族がいること、ご飯が食べられることなどを普通と思わずに、この普通は奇跡なんだということを思いながら毎日を過ごしていきたいと思いました。「あの日がなければ」と思うのではなく、これからあんな悲しいことが二度と起こらないように考えていきたいと思いました。（大嶋千尋）

映画から、決してあきらめずチャレンジすることが大切だということがわかりました。この映画はピアノを主人公にした映画でしたが、僕も逃げずに、迷わず前に進んでいこうと思いました。「被爆ピアノ」を見る時がとても楽しみです。（海谷春季）

被爆した後もピアノの持ち主が大事に使っていたこともすごいと思ったし、75年たった今でも演奏できるようにした調律師の方もすごいと思いました。毎年２年生は「被爆ピアノ」の演奏を聴くということなので、この映画を見て楽しみになりました。これからも「被爆ピアノ」のことが、受け継がれていくといいと思いました。（浅野彩寧）

何で『お母さんの被爆ピアノ』という題名なのか不思議でした。『おばあちゃんの被爆ピアノ』でもおかしくないのに。映画の中で気持ちに大きな変化があったのは主人公だけじゃなくて、お母さんだったからかなと思いました。「被爆ピアノ」のことが少しわかったので、演奏を聴けるのが楽しみです。（石井はづき）